



# 101st CRC Seminar

今回は、一時帰国する岩手大学農学部卒業生（1997年）である小林覚氏（ニューヨーク工科大学）に糖尿病性心筋症に対する選択的オートファジーの関与についての研究成果を発表していただきます。オートファジーは2016年のノーベル生理学・医学賞の受賞対象研究として有名になりましたが、生物界の多くの現象に関わっている重要なプロセスです。また、小林氏は2003年以来アメリカで研究生生活を続けていらっしゃいます。その体験談もお話していただけることになっています。多くの皆様の参加をお待ちしています。

## Dr. Satoru Kobayashi（小林 覚 氏）

Department of Biomedical Sciences

New York Institute of Technology, New York, USA

### 「選択的オートファジーと糖尿病性心筋症」

Selective Autophagy in the Diabetic Heart

時間：2017年1月25日（水）15:30～17:00

場所：連合農学研究科棟2階 第1セミナー室

オートファジーは細胞内構成因子の除去と再利用を担う品質管理の仕組みである。オートファジーの機能不全は様々な疾患の原因となる。糖尿病性心筋症は糖尿病に特異的な心筋障害であり、深刻な場合は死に至る病変であるが、その発生機序は明らかになっていない。近年、オートファジーが傷害を負ったオルガネラを選択的に取り除く仕組みが注目されている。我々は糖尿病性心筋症に選択的オートファジーがどう機能するかを解析している。得られた知見は、オートファジーの緻密な制御による治療法の確立に役立つだろう。

（問合先：上村 松生：uemura@iwate-u.ac.jp）